

授業科目	看護学概論	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1・2学期
設定理由	看護学の基礎として、看護の概要を理解する。 看護とは何かを理解し、その位置づけと役割の重要性を学ぶ。						
学習目標	看護の歴史的背景や看護の定義、職業および学問としての看護を学ぶ。 看護の対象としての、人間・健康・看護についての理解を深め、看護活動の場における看護の機能と役割についての理解を深める。						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護への導入 2. 看護の定義 3. 看護の対象の理解 ・「こころ」と「からだ」 4. 看護の対象の理解 ・生活者としての人間 5. 健康のとらえ方 ・健康とは何か 6. 健康のとらえ方 ・健康な状態、健康でない状態 7. 医療に携わる人々 8. 看護の提供者 9. 国民の健康状態 10. 国民の健康状態に関する統計 ・人々の生活と健康に関する統計を読む 11. 看護における倫理 12. 看護の提供のしくみ 13. 医療安全 14. 看護学生として実習で必要な知識と行動について (講義の順序は基礎看護学実習の前) 15. 試験 					担当者(時間)	
評価	筆記試験						
テキスト	看護学概論(医学書院) 看護覚え書き 看護であること・看護でないこと (現代社) 看護の基本となるもの(日本看護協会出版会)						
備考							

授業科目	看護倫理	単位	1	時間	15	履修時期	2年次 1学期
設定理由	医療のめざましい進歩によって多大な恩恵がもたらされている一方、看護倫理に関する問題が増加している。日々の医療行為には、いつも倫理的問題が潜んでいると言っても過言ではない。倫理的問題は、医療者が日々のなにげない言動により対象を傷つけてしまう可能性から、高度な医療に伴う問題までさまざまである。種々の看護倫理に関する問題を取りあげ、倫理(正直であること)、マナー(責任と思いやり)をもったの対象への対応について学習する。						
学習目標	医療専門職に必要な倫理の基礎知識および看護職者としての役割について学ぶ。 1) 医療専門職に必要な倫理の基礎知識を理解する。 2) 看護の実践・教育・研究における倫理の重要性について理解する。 3) 看護実践における倫理的課題について考える。						
授業内容(講義ごとの内容)	1. 看護倫理とはなにか 2. 専門職としての倫理 3. 保健師助産師看護師法と倫理 4. 倫理問題へのアプローチ 5. 看護研究における倫理 6. 事例検討 7. 臓器移植をめぐる倫理的課題 8. 試験					担当者(時間) 専任教員(13) 非常勤講師(2)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 (医学書院) 系統看護学講座 看護学概論 (医学書院)						
備考							

授業科目	看護理論	単位	1	時間	15	履修時期	2年次1学期
設定理由	看護理論や看護論を学ことで。看護を概念化してとらえる基本的な力を養うこと、また、より普遍的で人間性豊かな自らの看護間を育てるため						
学習目標	看護の見方・考え方の基盤として看護理論全般について学習し、代表的な理論家の理論内容を看護実践へ活用する方法について理解する。						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論の分類と変遷 2) 看護理論家の述べている看護の概念 2. 看護理論家の看護から自身の看護について考える 3. 看護実践における理論活用の意義 中範囲理論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護アセスメントと援助に関する理論 2) 病気・障害・人生の体験を説明する理論 3) 機器・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論 4) 行動変容・行動強化に関する理論 4. 実習での看護実践を中範囲理論により説明する(グループワーク)① 5. 実習での看護実践を中範囲理論により説明する(グループワーク)② 6. 実習での看護実践を中範囲理論により説明する(グループワーク)③ 7. 実習での看護実践を中範囲理論により説明する(グループワーク)④ 8. 看護における理論活用の展望 					担当者(時間)	
						専任教員(15)	
評価	個人レポート、グループワークへの参加度と課題の内容等により評価(詳細は講義で説明)						
テキスト	看護学概論(医学書院) 看護実践に活かす中範囲理論(メヂカルフレンド社)						
備考							

授業科目	共通基本看護技術	単位	1	時間	15	履修時期	1年次 1学期
設定理由	看護活動を提供するための基礎となる技術を学ぶ。						
学習目標	看護の基本となる知識・技術を修得する						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術とは・看護技術の特徴・看護技術の範囲 2. 看護技術を適切に実践するための要素 看護技術の発展と修得のために 3. コミュニケーションの意義と目的 4. コミュニケーションの構成要素と成立過程 5. 関係構築のためのコミュニケーション 6. プロセスレコード 7. リフレクション 8. 試験 						担当者(時間) 専任教員(15)
評価	筆記試験						
テキスト	専門Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 看護がみえる vol.1 (メディックメディア)						
備考							

授業科目	看護の中の物理	単位	1	時間	15	履修時期	1年次 1学期
設定理由	人体や医療に関する物理現象と日常の身近な物理現象から自然界・人体のメカニズムの深さ・素晴らしさ・バランスのとれた美しさに興味を持ち、物理的思考を学ぶ。自然を深くみる目、自分で問題点を見つけようとする姿勢と物理的に解釈することを学ぶ						
学習目標	人体や医療に関する物理現象と日常の身近な物理現象から自然界・人体のメカニズムを理解することができる。						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 力学 2. 力のモーメント 3. 筋肉の張力と関節、腰に働く力 4. てこの原理の人体への応用 5. 看護ボディメカニクス of 物理 6. 圧力 7. 大気圧 8. 試験 					担当者（時間） 非常勤講師（15）	
評価	筆記試験						
テキスト	看護学生のための物理学（医学書院）						
備考							

授業科目	身体査定	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1学期
設定理由	患者のケアを行うためには、患者を正しく診なければならない。ここでは患者を正確に診るための知識や判断力を科学的根拠に基づいて学ぶ						
学習目標	患者を正確に診るために必要な身体査定法について、科学的根拠に基づいて習得する						
授業内容 (講義ごとの内容)	1. 看護とヘルスアセスメント、バイタルサインの仕組みと機能 1) ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・イグザミネーションの看護における目的 2) 五感を使って観察すること、情報を共有するための伝え方 2. 正しいバイタルサイン測定の方法と留意点 3. バイタルサイン測定の手順と使用物品の特性 4. 5. バイタルサイン測定の実際 (体温・呼吸・脈拍・SpO ₂ ・血圧) 6. バイタルサイン測定技術チェック 7. フィジカルアセスメントに必要な技術、身体計測 呼吸器系のフィジカルアセスメント 8. 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 (演習) 9. 循環器系のフィジカルアセスメント 10. 循環器系のフィジカルアセスメントの実際 (演習) 11. 乳房・腋窩、腹部のフィジカルアセスメント 12. 腹部のフィジカルアセスメントの実際 (演習) 13. 神経系のフィジカルアセスメント 頭頸部と感覚器 (眼・鼻・口) のフィジカルアセスメント 14. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 心理・社会状態のアセスメント 15. 臨床推論/試験					担当者 (時間)	専任教員 (30)
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院) 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント (メディックメディア)						
備考	解剖生理学や看護の中の物理で学んだ知識が必要です。しっかり復習して講義に臨んでください。また、看護技術の習得が必要な科目です。積極的に演習や自主トレーニングを行ってください						

授業科目	環境を整える援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1学期
設定理由	生活と環境は相互に影響しあうものであり、環境条件が病状に影響し、回復意欲に関わる。患者が安全で快適に入院生活を送れるよう病室の環境を整えることは大切なことである。また、集団生活の場でもある病室は、清潔を保つことで、自らが感染しない環境と、周囲の人に感染させない環境を整えなければならない。その環境を整える看護技術を学ぶ。						
学習目標	1. 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと調整、ベッド周囲と病床の環境整備、ベッドメイキングの実際について学ぶ。 2. 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、標準予防策・感染経路別予防策を学ぶ。 3. 洗浄・消毒・滅菌の実際、感染性廃棄物の取り扱い、無菌操作について学ぶ。						
授業内容 (講義ごとの内容)	1. 人にとって快適な環境とは 環境の構成要素 1) 生活と療養生活の環境 2) 病室および病床環境のアセスメントと調整 2・3. 演習：環境測定 4. 感染防止の技術 1) 感染防止の基礎知識 2) 標準予防策 3) 感染経路別防止策 4) 感染性廃棄物の取り扱い 5・6. 演習：標準予防策・衛生的な手洗い 7. ベッドメイキング・リネン交換の原理と方法 8・9. 演習：ベッドメイキング 10・11. 演習：シーツ交換 12. 技術チェック：シーツ交換 13. 感染防止の技術 1) 洗浄・消毒・滅菌 2) 無菌操作 14・15 演習：無菌操作 16. 試験					担当者(時間) 専任教員(24) 感染管理認定看護師 (6)	
評価	レポート、及び、筆記試験						
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 看護がみえる vol.1 (メディックメディア) 看護覚え書き (現代社)						
備考	実習室は病床環境と考えて行動しましょう。爪は長くないか、基本的な手洗いはできているか、白衣の着こなしは適切で清潔であるかに留意して臨みましょう。1年次の臨地実習でも確実にできることが求められます。集中して取り組みましょう。						

授業科目	活動と休息の援助技術	単位	1	時間	15	履修時期	1年次1学期	
設定理由	看護師は、患者がいまもっているセルフケア能力を低下させることなく、必要な安静をまもり、活動や休息を援助する責務があるため。							
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボディメカニクス技術の基本について理解・説明できる 2. ベッド上での体位変換の種類について理解・説明できる 3. ベッドと車いす間の移乗させる援助の手順・留意点が理解でき、実施できる 4. ベッドとストレッチャー間の移乗させる援助の手順・留意点が理解でき、実施できる 5. 患者を車いす、ストレッチャーで移送する際の留意点が理解でき、実施できる 6. つえ歩行の患者の移動介助の援助の手順・ポイントが理解でき、実施できる 7. 睡眠障害のおもな要因が理解でき、睡眠の援助方法を理解・説明できる 							
授業内容(講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1, 姿勢を保ち・活動を整える援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 姿勢・活動に関する基礎知識 2) 体位 3) ボディメカニクス 2. 体位変換の実際 (技術演習) 3. 移動・移乗の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 歩行介助、杖、松葉つえ、歩行器 2) 車椅子、車椅子 3) ストレッチャー 4.5. 移動・移乗の援助の実際 (演習) <ol style="list-style-type: none"> 1) 歩行介助、杖、松葉つえ、歩行器 2) 車椅子、車椅子 3) ストレッチャー 6. 睡眠と休息の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 睡眠・休息の基礎知識 2) 睡眠障害のアセスメント 7. 睡眠と休息の援助方法 (グループワーク・講義) 8. 試験 					担当者(時間)		専任教員(15)
評価	筆記試験							
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護技術がみえる① (メディックメディカ)							
備考								

授業科目	食事と栄養の援助技術	単位	1	時間	15	履修時期	1年次 1学期
設定理由	食事は、生活活動のひとつであり、その社会の文化や経済、生活上の楽しみにつながり、また、それらが各人の食生活に対する行動の示し方が異なることを学び、援助につなげる						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての食事と栄養の意義を理解することができる 2. 患者の栄養状態および水分・電解質バランスのアセスメントが理解・説明できる 3. 摂食能力のアセスメントについて理解・説明できる 4. 医療施設で提供される食事の種類や特徴について理解・説明できる 5. 食事動作機能障害がある患者の食事援助の手順・ポイントが理解・説明でき、実施できる 6. 摂食嚥下訓練の種類と留意点が理解・説明でき、実施できる 7. 非経口的栄養摂取方法（胃管挿入の手順・経鼻胃カテーテルからの注入） 8. 中心静脈栄養法に伴う合併症や援助方法を理解・説明できる 						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な食生活の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食事と栄養の意義 2) 食事摂取のために必要な機能、摂食嚥下機能のメカニズム 2. 食事摂取 <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養状態および水分・電解質バランスのアセスメントと管理 3. 摂食・嚥下訓練 <ol style="list-style-type: none"> 1) 摂食能力のアセスメント/摂食嚥下訓練の目的と適応・留意点 4. 5. 食事援助（演習含む） <ol style="list-style-type: none"> 1) 食事援助の目的、食事環境の調整と摂食準備 2) 食事動作機能障害がある患者の食事援助 6. 非経口栄養法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 経管・経腸栄養法/経静脈栄養法 7. 試験 					担当者（時間）	
						専任教員（15）	
評価	筆記試験						
テキスト	専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる vol.1,2 基礎看護技術（メディックメディア）						
備考	解剖学、生理学で学んだ消化器系の内容を復習し、講義・演習に臨んでください						

授業科目	排泄の援助技術	単位	1	時間	15	履修時期	1年次 2学期
設定理由	排泄は生命維持のために欠かすことができない生理的、基本的欲求である。しかし、看護の対象者は、治療や検査の必要から一時的に日常的な方法での排泄を制限されることや、疾患や障害によって通常の排泄行動が営めなくなることにより、看護師の援助を受けることになる。そこで、患者の気持ちを考え、安全に気持ちよく、安心して、またその人の持てる力を最大限発揮できるような排泄援助技術を学ぶ						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法を理解する 2. 自然排尿・排便の援助を学ぶ 3. 一時的導尿、持続的導尿、浣腸と摘便の方法を学ぶ 						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄に関する基礎知識 2. 自然排尿および自然排便の介助の基礎知識 3. 演習：自然排尿の介助の実際 4. 演習：自然排便の介助の実際 5. 排便・排尿を促す援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 便秘・下痢の種類と要因 2) 浣腸 3) 摘便 4) 一時的導尿 5) 持続的導尿 6. 演習：陰部洗浄 7. 演習：一時的導尿の実際 8. 試験 					担当者（時間）	専任教員（15）
評価	筆記試験						
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ （医学書院） 看護がみえる vol.1 2 （メディックメディア）						
備考							

授業科目	清潔・衣生活の援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1・2学期
設定理由	自分の身体や身につけるものを清潔に保つこと、自分の好きな衣服や装飾品を身にまとい、好みの方法で身づくろいをする事は、人間にとって基本的な欲求のひとつである。健康障害や加齢のため、あるいは治療上の制約のため、自分自身で身体を清潔に保つことや衣服を着替えることが困難な状況にある人たちへの基本的な援助技術を学ぶ。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔・衣生活の意義や目的、援助におけるアセスメントの視点を理解する。 2. 清潔・衣生活の援助に必要な基本的知識を理解する。 3. 清潔・衣生活に関する基本的な援助の方法を習得する。 						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔と衣生活の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 清潔の意義 2) 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 3) 病床での衣生活の援助 2～7. 全身清拭、病衣の交換 (技術チェック含む) 8. 全身浴 (入浴、シャワー浴) 9. 部分浴 (手浴・足浴、爪切り) 10. 洗面、ひげそり、口腔ケア 11～14. ケリーパッド法による洗髪 (技術チェックを含む) 15. 試験 					担当者 (時間) 専任教員 (15) 専任教員 (15)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護がみえる vol.1 (メディックメディア)						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の習得においては、正しい知識と手技で繰り返し自己学習やグループ演習を行い到達度を高めて下さい。 ・授業以外の空き時間を活用して、グループ・個人で話し合いや演習を行い、学習を主体的に進めていきましょう。 ・授業時間外の技術演習で教員の指導を希望する場合や実技評価を受ける時は、事前にできるだけ早く日時を申し出て調整しましょう。 						

授業科	与薬に伴う援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 2学期
設定理由	医薬品の剤形や投与方法は多岐にわたっており、さまざまな知識と技術が求められるため。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1, 薬剤の保管・管理上の注意点が理解・説明できる 2, とくに副作用に注意すべき薬剤とその副作用について理解・説明できる 3, 経口薬・吸入薬・点眼薬・点鼻薬の特徴と与薬の援助の手順・ポイントが理解・説明できる 4, 経皮吸収製剤の特徴と与薬の援助の手順・ポイントが理解・説明できる 5, 直腸内与薬の特徴と与薬の援助の手順・ポイントが理解・説明できる 6, 皮下・皮内・筋肉内・静脈内注射の実施手順・留意点が理解でき、実施できる 7, 点滴静脈注射の実施手順と留意点が理解でき・説明できる。また、輸液速度の調整方法が理解・説明できる 						
授業内容(講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬に関する基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 剤形と投与経路 2) 法律と管理 3) 看護師の責任と役割 2. 与薬の適応と原則① <ol style="list-style-type: none"> 1) 誤薬・誤認防止 2) 経口・口腔内与薬 3. 与薬の適応と原則② <ol style="list-style-type: none"> 1) 吸入 2) 点眼 3) 点鼻 4) 塗布 5) 直腸内与薬法 4. 注射の適応と原則 <ol style="list-style-type: none"> 1) 注射の種類と特徴 2) 物品の取り扱い 3) 安全対策 5・6. 注射器の取り扱いと薬液の吸い上げ(演習) 7. 注射法の実際(講義) <ol style="list-style-type: none"> 1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉内注射 8・9. 筋肉内注射の実際(演習) 10. 注射法の実際(講義) <ol style="list-style-type: none"> 1) 静脈内注射 2) 点滴静脈内注射の管理 11・12. 点滴静脈内注射の実際(演習) 13. 注射法の実際(講義) <ol style="list-style-type: none"> 1) 中心静脈カテーテル 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプ 14. 輸液ポンプ・シリンジポンプの実際(演習) 15. 科目のまとめ学習/試験 					担当者(時間)	
						専任教員(30)	
評価	筆記試験+課題提出						
テキスト	専門Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護がみえる vol.1・2 (メディックメディア)						
備考	解剖生理学、看護の中の物理、薬理学の知識が必要になります。予習・復習をして講義に臨んでください。注射針を使用しますので、事故を起こさないように十分留意して臨んでください。注射針の使用は安全のために教員のもとで行います。そのため、自主的に時間外で演習を行うことが難しい状況となりますので、講義の時間を有効に活用してください。						

授業科目	検査・処置に伴う援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	2年次 1学期・2学期
設定理由	医師が行う診療の介助やそれに伴う対象への援助、及び医師の指示に従って看護師が実施する行為としての技術を学ぶ						
学習目標	患者が安全・安心して検査・治療が受けられるように援助するための方法を理解する						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 創傷管理技術 創傷管理の基礎知識 2. 褥瘡予防、創傷管理技術 3. 褥瘡ケア 4. 褥瘡ケア（演習） 5～6. 包帯法（演習） 7～9. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 検査における看護師の役割 2) 検体検査・生体情報のモニタリングの援助の基礎知識と実際 10～12. 診察・検査・処置の介助技術 ※滅菌ガウン着用の介助と清潔区域の作成を含む 13～14. 真空採血管による採血方法の実際（演習） 15. まとめ/試験 					<p>担当者（時間）</p> <p>専任教員（24）</p> <p>皮膚・排泄ケア認定看護師（6）</p>	
評価	筆記試験（演習に関する課題レポート・学習姿勢を含めて総合的に判断します）						
テキスト	<p>専門Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ （医学書院）</p> <p>根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 （医学書院）</p> <p>看護技術がみえる（メディクメディア）</p>						
備考	解剖生理学、環境を整える援助技術（滅菌物の取り扱い）、活動と休息の援助技術（体位変換）の知識が必要です。復習をして講義に臨んでください。						

授業科目	生命活動を支える援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	1年次2学期
設定理由	呼吸・循環などの生体機能は、人間が生命活動を維持する上で重要となる。看護は健康な生活の維持・向上が目的であることから、健康障害によりその維持が困難になった場合には指導や看護技術の提供が必要となる						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸・循環などの生体機能への機能補助技術の必要性と方法を理解する 2. 呼吸・循環の状態をアセスメントし、機能の維持・改善のための方法を学ぶ 						
授業内容 (講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸・循環状態のアセスメントの必要性と方法 2. 酸素吸入療法、低侵襲排痰ケアの理論と方法 3. 演習：低侵襲排痰ケアの実際 4. 演習：酸素吸入療法の実際 5. 自発呼吸と人工呼吸の違い、人工呼吸療法 6. 気道加湿法と口鼻腔・気管内吸引の理論と方法 7～8. 演習：口鼻腔・気管内吸引の実際 9. 低圧持続吸引の仕組みと管理 10. 体温調整の必要な人の看護 11. 演習：温・冷罨法 12. 輸血療法と看護 13～14. 演習：止血法・一次救命処置 15. 末梢循環促進ケア/試験 					担当者（時間）	
						専任教員（30）	
評価	筆記試験						
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 専門基礎 解剖生理学(医学書院)、 専門Ⅱ 成人看護学②呼吸器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学③循環器(医学書院)、 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦脳・神経 看護がみえる vol.1,2(メディックメディア)						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の習得においては、正しい知識と手技で繰り返し自己学習やグループ演習を行い到達度を高めて下さい。 ・授業以外の空き時間を活用して、グループ・個人で話し合いや演習を行い、学習を主体的に進めていきましょう。 ・授業時間外の技術演習で教員の指導を希望する場合や実技評価を受ける時は、事前にできるだけ早く日時を申し出て調整しましょう。 						

授業科目	看護実践方法論	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 2学期	
設定理由	看護の日常的で実際的な実践の形態は、問題解決的思考にもとづく看護過程の展開というとらえ方によって理解することが有効である。ここでは、対象の健康問題を系統立てて、科学的に解決するための方法を学ぶ。							
学習目標	問題志向型システムとしての看護過程のステップを理解する							
授業内容 (講義ごとの内容)	1. 看護過程とは「看護過程の構成要素」「問題解決過程」 2・3. リフレクション、看護過程の各段階について 4・5. 看護記録、アセスメントツールについて 6・7. ヘンダーソン・ニード論について 8. 事例展開 「脳梗塞」 アセスメント 9. 事例展開 「脳梗塞」 アセスメント・関連図 10. 事例展開 「脳梗塞」 看護問題の明確化 11・12. 事例展開 「脳梗塞」 看護計画の立案・看護目標 13. 事例展開 「脳梗塞」 看護計画の立案 14. 事例展開 「脳梗塞」 看護介入の実施・評価 15. 科目のまとめ学習/試験						担当者(時間)	専任教員(30)
評価	筆記試験+課題提出							
テキスト	専門Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 1 (医学書院) ヘンダーソン看護論に基づく看護過程 第4版 (ヌーベルヒロカワ) ヘンダーソンの基本的看護に関する問題リスト 第4版 ヌーベルヒロカワ 看護の基本となるもの (日本看護協会)							
備考								

授業科目	看護研究	単位	1	時間	30	履修時期	2年次 2学期
設定理由	看護研究の意義、研究の倫理、ならびに研究方法論について、実践を通して理解を深めるとともに、物事について深く考えたり調べたりすることで探究心を養い、研究的態度を身につける。また、自らの看護実践を振り返ることで自己の看護観を高める。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と研究方法について理解する 2. 看護研究における文献の活用方法を理解する 3. これまでの学習を通して芽生えた問題意識を研究テーマへと発展させる 4. 受け持ち事例の看護過程の展開について、論文作成、成果発表までの一連の研究のプロセスを体験する 						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の種類と特徴 研究の定義、看護実践と看護研究の関連、 研究疑問と研究デザイン、量的・質的研究のアプローチの違い 2. データ収集（観察法・質問法） 質問紙・変数・尺度の種類と特徴、面接法の種類と特徴 3. 文献検索の方法 文献検討（検索）の目的、文献の種類（一次文献・二次文献）、 文献検索の方法（web 検索） 4・5 研究における倫理、研究計画書 研究における倫理的配慮、研究計画書の構成内容 6. ケーススタディの進め方 論文作成・ケーススタディの意義 論文及び抄録の構成内容と書き方 ※卒業論文を用いて説明 7. 論文クリティーク ※課題：卒業論文1題 8～11. ケーススタディ発表に向けてのオリエンテーション・発表準備 11～14. ケーススタディ発表 15. 看護研究まとめ/試験 					担当者（時間）	
評価	<p>筆記試験（50%）</p> <p>ケーススタディへの取り組みおよび論文作成過程とその発表（50%）</p>						
テキスト	<p>系統看護学講座 別巻 看護研究 （医学書院）</p> <p>看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 （照林社）</p>						
備考	ケーススタディの論文作成指導は、老年看護学実習Ⅱの実習担当教員が行う。						

授業科目	看護研究演習	単位	1	時間	30	履修時期	3年次 1学期
設定理由	卒業研究を通して、自己の看護観を見つめる機会とする 論文作成を通して自己の看護的体験を論理的に記述することができる能力を養う						
学習目標	看護を追求していく姿勢を養い、自己の看護観を高める 3年次前期の病棟実習において受け持った事例について看護過程展開実践について 論文作成から抄録作成および発表までを行う（卒業論文 ケーススタディ）						
授業内容（講義ごとの内容）	1. 看護研究演習オリエンテーション 2～9. 文献検索、研究計画書作成 論文・抄録作成、 プレゼンテーションの準備、 発表会の準備 10～14. 口演発表、相互評価 発表会の運営 15. 論文修正、完成					担当者（時間） 専任教員 (30)	
評価	論文作成への取り組み状況、提出状況、研究論文及び研究発表について、評価表に基づき評価する。						
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究（医学書院） 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社）						
備考							

授業科目	基礎看護学実習 I (I-1 療養環境の理解・ I-2 日常生活の援助)	単位	1	時間	45 I-1(10) I-2(35)	履修時期	1年次 1学期～2学期
設定理由	基礎看護学実習は臨床の場の対象(患者)に対して、講義や演習で習得した基礎的知識・技術・態度を統合して看護活動を展開する初めての実習である。看護の実際を体験することによって、看護の場と対象者を総合的に理解し、看護学を学ぶ動機づけを図る。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 療養環境および病院の構造・病床環境や看護体制・看護の役割の実際を知る これまで学習した知識や基本的な看護技術を統合しながら、対象の個別性に合わせた日常生活の援助を実践する 						
授業内容(講義ごとの内容)	<p>基礎看護学実習 I-1</p> <ol style="list-style-type: none"> 病院の役割と機能、概要 病棟の概要 入院患者の療養環境 医療チームにおける看護師の活動の実際 患者とのコミュニケーション <p>基礎看護学実習 I-2</p> <ol style="list-style-type: none"> 日常生活行動の状況の把握 日常生活の援助の必要性の判断 目的・効果を考えた援助計画の立案 看護技術の基本的構成要素(ボディメカニクス、作業効率と作業の組立、清潔と不潔、経済性、安全性、個別性、反応の観察と対応、説明)をふまえた援助の実施 実施した援助についての評価 援助計画の修正 <p>※ 援助の実施は実習指導者・教員の助言、指導のもと行う。</p>	<p>担当者(時間)</p> <p>専任教員</p>					
評価	基礎看護学実習 I 評価表に従い、実習目標への到達度、実習状況(出席状況・実習態度)、実習記録物の提出等について総合的に評価する。						
テキスト	基礎看護学の授業で使用したテキスト						
備考	<p>実習までに学習した専門知識や基本的な看護技術をしっかり復習し、積極的に実習に取り組んでください。</p> <p>体験内容の言語化を通して、学習内容の理解を深め、実践と理論を統合していきましょう。</p> <p>実習期間中1日も欠席することのないように、体調管理をしっかり行ってください。</p>						

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ	単位	2	時間	90	履修時期	1年次 2学期
設定理由	基礎看護学実習Ⅰに続く実習として、受け持ち患者の入院、疾病・治療による日常生活の変化や心理状態について把握し、対象のニーズに基づいた看護ケアのプロセスを踏むことによって「看護援助」についての考え方を深める						
学習目標	看護の対象を身体的・精神的・社会的存在として理解し、入院状況下にある人々の健康問題（看護上の問題）を解決するための看護過程の展開技術を学ぶ						
授業内容（講義ごとの内容）	<p>ヘンダーソンの看護理論を用いた看護過程の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集 2. 情報の整理と解釈 3. 看護問題の明確化 4. 看護目標の設定(長期目標・短期目標) 5. 看護計画の立案 6. 看護計画にもとづく実践、および実践の評価 7. 看護計画の修正 <p>※患者を総合的に理解し、援助を必要とすることがらを判断して、個別的・計画的な看護を行う。 必要と考えた援助の優先順位を考え、看護目標を設定して具体的な計画を立てる。 実践は実習指導者・教員の助言、指導のもと行う。</p>					<p>担当者（時間）</p> <p>専任教員</p>	
評価	基礎看護学実習Ⅱ評価表に従い、実習目標への到達度、実習状況（出席状況・実習態度）、実習記録物の提出等について総合的に評価する						
テキスト	基礎看護学の授業で使用したテキスト						
備考	<p>体験内容の言語化を通して、学習内容の理解を深め、実践と理論を統合していきましょう。 学習した内容が統合・活用できるように、実技演習した基本的技術をさまざまな条件をもった対象を想定して応用できるように練習しておきましょう。 3週間にわたる実習なので特に体調管理に心がけてください。</p>						